

# おすすめ本を しょうがい ズ紹介します



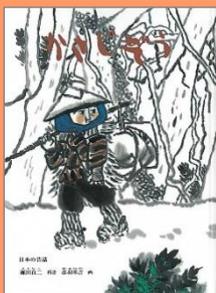
2024

12

月号

1〜2年生くらいから

よういさ、よういさ、  
よういさな。



しょうがつのもちをかう  
ために、あみがさをうりに  
いったじいさん。しかし、  
さっぱりうれません。  
かえるとちゅう、ゆきが  
つもった六人のじぞうさまを  
みつけた。

『かさじぞう』

瀬田貞二 再話 赤羽末吉 画 福音館書店

ヤカちゃんはうまれつき  
こえが大きいの！



かあさんねずみと子ねずみたち  
はトドさんのいえでしずかに  
くらしていた。  
あるばん、すえっこねずみの  
ヤカちゃんのすむいえに、  
どろぼうがしのびこんで…!?

『番ねずみのヤカちゃん』

リチャード・ウィルバー さく 松岡享子 やく 大社玲子 え 福音館書店

3〜4年生くらいから

クリスマスの  
すてきな出会い

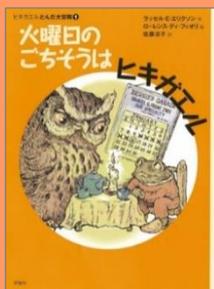


おもちゃやにならんだ  
人形のホリーは、連れて  
帰ってくれる子どもが  
来るのを待っていた。  
そこへ家族のいない  
アイビーという女の子が  
やって来て…。

『クリスマスの女の子』

ルーマー・ゴッデン 作 久慈美貴 訳 たかおゆうこ 絵 徳間書店

ぼくを  
たべないで！



みみずくにつかまってしまった  
ヒキガエルのウォートン。  
ウォートンは、次の火よう日の  
みみずくのとんじょう日の  
ごちそうにされそうになり…。

『火曜日のごちそうはヒキガエル』

ラッセル・E.エリクソン 作 ローレンス・ディ・フィオリ 絵 佐藤涼子 訳 評論社

5〜6年生くらいから

6歳の少女との  
出会い



遊牧民の国、モンゴルを  
知っている？  
探検家である著者が  
出会った少女プージェは、  
変化する社会の中で  
一生けん命生きていた。

『草原の少女プージェ』

関野吉晴 著 小峰書店

フィンランドの  
昔話



ある夏の日、ブーツをぬすまれた  
サンタクロースが家の外に  
たおれていた。子どもたちは  
ヒーシのいる森へブーツを  
取りかえすために出かけたが…。  
13の物語集。

『夏のサンタクロース』

アンニ・スヴァン 作 ルドルフ・コイヴ 絵 古市真由 訳 岩波書店

